

Vol.178

令和7年度4月号

今年は ラムサール条約登録湿地 指定40周年

1985年(昭和60年)9月13日 伊豆沼・内沼がラムサール条約登録湿地に指定されてから、今年で40年を迎えます。この40年、伊豆沼・内沼の環境は、増水や干ばつによる植物の枯死、外来魚等の影響による在来生物の激減など、私たちの生活と同様に大きく変わって来ました。そのような状況の中でも、伊豆沼・内沼をサンクチュアリ(聖域)にしようと取り組んできた先人達の熱い想いは、今に引き継がれ、世界でも有数の生物多様性に富んだ湿地として知られるようになってきています。

これまでの伊豆沼・内沼での活動を振り返り、ご支援をいただいた皆さんへの感謝を伝える一年にするため、様々なイベントを開催します。ぜひ、ご参加ください。

ラムサール条約登録40周年記念事業(イベント)

開催・内容等		
4月 ～6月	バス・バスターズ	バス駆除のボランティア活動
	トヨタ東日本(株)グループ 企業 CSR活動	
6月 ～1月	自然体験講座特別プログラム(全10回)	詳細は5月上旬にHPで発表 (7回目以降の募集は10月1日～)
10月 ～1月	サンクチュアリセンター (鳥館) 企画展・スタンプラリー	40年を振り返ります
	(株)伊藤園 主催 環境保全活動	募集告知は(株)伊藤園のHPで
	サンクチュアリセンター友 の会主催 感謝祭	伊豆沼・内沼の恵みをいただきます
	記念シンポジウム (県主催)	これからの伊豆沼・内沼を話し合 います
3月	第35回フォトコンテスト	蕪栗沼・周辺水田、化女沼、志津 川湾の写真も応募できます
	第64回 伊豆沼・内沼 クリーンキャンペーン	最終イベント きれいな沼にしましょう



バス・バスターズ参加者で記念撮影



(株)伊藤園による環境保全活動



自然体験講座での漁師体験



ガンの飛び立ち観察会

第34回フォトコンテスト最優秀賞
「息を合わせて！」

第63回クリーンキャンペーン

伊豆沼第2・第3工区堤防一斉清掃（野火）を実施しました

3月1日（土）に、本年度の伊豆沼第2・第3工区堤防一斉清掃（野火）を、伊豆沼漁業協同組合、伊豆沼沿岸土地改良区及び当財団の主催で実施しました。実施にあたり栗原、登米市の共催をいただき、消防団の派遣や両市消防署による見回りなどの協力を得ました。

野火の目的は、枯れたヨシ原を焼くことにより新芽が出やすくなることや、害虫駆除などです。全国的にも同時期に各所で行われています。

地域の皆様には、交通規制などにご理解とご協力をいただき、事故もなく無事実施出来ましたことを感謝いたします。



2工区での野火実施の様子

第63回 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンが開催されました

本年度の伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンが、3月20日の春分の日に開催され、若柳、築館、迫の3地区合わせて81団体、608名の皆さんが参加し、伊豆沼、内沼周辺の清掃活動に取り組みました。



3地区合わせて608名が参加者しました



ごみの量は3地区で780kg



午前8時30分から約2時間の作業で集められたごみの量はおよそ780kgにのぼり、中には古タイヤなどの粗大ごみも多く見受けられました。ご参加いただいた皆様、大変お疲れ様でした。

伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ ツクシ ～



ツクシ



スギナ

ツクシは、野原に春の訪れを告げる植物として古来より親しまれてきました。山菜としても有名で、ツクシの卵とじや佃煮を食べたことのある方も多いと思います。

この誰もが知るツクシですが、よく見ると、とても変わった姿形をしていることに気づきます。まず植物なのに葉っぱらしき物が見当たりません。また、緑色をしていないので、光合成もできなさそうです。このような姿形でどうやって生きているのでしょうか。

実はツクシはスギナという植物の一部で、胞子を作るための特別な茎（胞子茎といいます）のことです。先端の筆のような部分に着くウロコ状のものが、胞子をつくるための特別な葉（胞子葉といいます）で、茎についている袴の部分も葉です。ツクシは光合成ができないため、スギナは光合成のための茎（栄養茎といいます）も生やします。この栄養茎は専らスギナと呼ばれており、緑色で30cmほどに育ちます。スギナは繁殖力が強いので、放置しておくとも一面を覆い尽くしてしまう強害草としても知られています。

以上のように、ツクシはとてもおもしろい生態をもっています。ありふれた植物であっても、注意深く観察してみると新たな発見があるかもしれません。皆様も、春の野原で植物観察を楽しんでみてはいかがでしょうか。

